

初等部 1年 国語 1

「声をそろえて」

鶴尾基子

「教室にたくさん詩を」この気持ちを大切に、4月から詩の音読や言葉あそびを楽しんできた。また子どもたちは習いたての文字を使って、1学期から何篇もの作詩に挑戦してきた。そんな中から報告会では、子どもたちが選んだ好きな詩やことば遊びから5作品、1学期から書き溜めてきた子どもたちの詩集より構成し合作した1年生の詩を組中で群読した。最後は「おはよう、ありがとう、ごめんね」そんな素敵なことばがいっぱい詰まっている美鈴こゆき作詞「キラキラ キラキラ」の歌を気持ちを込めて元気よく歌った。

I. はじめに

子どもたちにたくさんのことばや詩に触れさせたいと思い、4月から詩やことば遊びの紹介、本の読みかせなどを行ってきた。

また一人ひとりが自分の気持ちとことばに向き合う時間がとれるようにと、5月から作詩を授業の中でとりいれてきた。

今回の勉強を通して、友だちと声をそろえて読むこと、声を重ねる喜びや楽しさを知り、17人の心をひとつにすることを目標に取り組んできた。練習を積み重ねる度に一人ひとりから意欲的な姿が見られるようになり、1年生の声の輪が出来上がっていった。

合わせてみたくなる詩、そんな楽しい作品を紹介してきた。当番の子どもには、組の皆で読みたい詩を選んでもらい、「今日の詩」として組中で声をそろえて音読してきた。中には、暗誦する子どもも出てきて、教師や友達に覚えた詩を発表する児童の姿も見られるようになった。教師がプリントした詩を、児童一人ひとりの「詩のファイル」に溜めていき、報告会前には全部で36作品にのぼった。

2. 音読のおさらい

音読カードで励んだ。北原白秋による「五十音」や、新井竹子による「あいうえお」で発声練習を行った。3つの観点（①ははっきりした声で②口をしっかりあける③丁度よい速さで）に気をつけ、保護者の方にも聞いてもらうようにした。

3. 作詩の読み取り

5月の母の日を前に「おかあさん」の詩を初めて作詩した。まだひらがな指導が終わっていない段階での詩作りだったが、母親への思いを子どもたちなりに一生懸命表現していた。

その後、特別なことがあったときや、行事の後などに作詩を行い、報告会までに全部で、16の詩を書いた。

4. 歌指導

「おはよう」「ごめんね」「ありがとう」素敵な言葉がいっぱい溢れる組になってほしいという願いを込めて、担任よりクラスの歌になればと思い紹介した歌である。10月から音楽教師の協力を得て練習を重ねてきた。

5. 発声指導（母音指導）



II. 報告会までの学習

1. 詩、ことば遊びに触れる

思わず声に出してみたくなる詩、友だちと声を

母音の指導をする。鏡をみて自分の口の形をはっきりつくらせることから始めた。鏡を用いて唇の開き具合や、舌の位置を確認しながら練習していった。正しい発音には呼吸の仕方も大切であることから、お腹を膨らませ、へこませる複式呼吸の練習も行った。

声を出すことの恥ずかしさを超えてほしいという思いから、自分を開放する機会をとった。好きなことばを思いきり声に出すことを行った。

児童の感想

・わたしは好きなことばをみんなの前で、みんなといっしょにいえてうれしかった。みんなに、はく手をしてもらってうれしかった。



6. 好きな詩を選ぶ

今まで紹介してきた、たくさんの詩から子どもたちに好きな詩を選んでもらった。その結果上位に、かっぱ、やんま、でんでりゅうば、きゅうり、たんぼぼ、えかきうた、うんとこしょ(群読)、いるか、あいうえお、などがあがった。子どもたちの好きな理由はリズムがいい、おぼえやすい、声を出すと元気になる、楽しいなどの声が多く見られた。その中から報告会に相応しい5作品を選び、でんでりゅうばを入場の際に声に出して発表した。

7. 報告会 台本

子どもが選んだ詩と児童の詩集より、子どもの文を構成し、群読用に教師が台本を作った。11月上旬には子どもたちに渡し、家族ごとに発表するところを決めた。家族によっては一人で言うところと皆で声を合わせ発表する家族とがあった。

8. ステージ練習

体育館でのステージ練習を行う。発表の様子を映像に撮り、より客観的に報告できているかの確認を行った。

よりよい発表になるようにと、練習後には必ず、子どもたちからもどうだったかを聞き合うようにした。本番までに計16回のステージ練習を行った。

9. 美術

美術教師に協力してもらい、背景の絵を全員で合作した。合作は詩に合わせ、おかあさんの絵、かたつむり、友だちの顔、体操会の絵と皆とてもよく取り組んだ。両側の大木は校外学習「東大演習林」でスケッチをしてきた児童のアカマツをもとに合作で仕上げた。



III. 報告の内容

(A山が) 一年せいは一学き、二学き

(Aよござわ) たくさんのしをよみました。

(Aはなわ) ぜんぶで36このしです。

(Bみや本) このしのファイルにためていきました。

(Bささ田) わたしがすきなしは「えかきうた」です。

(Bきゃん) わたしのすきなしも「えかきうた」です。

(C小ざわ) いまから みんながすきなしをはっぴょうします。

(Cたかはし) きいてください。

・(Cふくしま) あいうえお

(C大しま) あらいたけこ

・(Cふくしま) やんま

(C大しま) たにかわしゅんたろう
・(Eこぼり) えかきうた
・(Dこんどう) かっぱ
(Dあんどう) たにかわしゅんたろう
・(Dからさわ) うんとこしょ
(Dあら川) たにかわしゅんたろう
(Eくま川) 一がつきからじぶんたちでもしをかきました。
(Eすぎはら) みんなでつくったしをぐんどくします。
(Eこぼり) きいてください
(Aはなわ) にゅうがくしき
(ぜ) にゅうがくしき
(ぜ) チラチラ シンシン チラチラ シンシン
(Bささ田) みぞれの中
(ぜ) みぞれの中
(C小ざわ) せんせいに しょとうぶの
(Dこんどう) せいぼう かぶせてもらったよ
(ぜ) もらったよ
(Eくま川) ともだちできてうれしいな
(ぜ) うれしいな
(ぜ) ワクワクドキドキ ワクワクドキドキ
(Aよこざわ) おかあさん
(ぜ) おかあさん
(A山が) はじめてみんなで しをかいた
(ぜ) しをかいた
(Aよこざわ) おかあさんのし
(Aはなわ) おかあさん いつもありがとう
(Aかぞく) おかあさんのおりょうりおいしいよ
(ぜ) おいしいよ
(Aかぞく) おかあさんのめだまやきはせかい一
(ぜ) せかいいち
(ぜ) 大すきだよ おかあさん
(ぜ) おかあさん
(ぜ) キラキラ キラキラ キラキラ キラキラ
(Bみや本) かたつむり
(Bささ田) かたつむり みつけたよ
(Bきゃん) 一年せいのなかまいり
(Bみや本) なまえはかたちちゃん
(Bささ田) つむりちゃん
(Bきゃん) かたつむりときどきだっそうするけれど
(Bかぞく) だいすき だいすき

(ぜ) かたつむり
(Bささ田) げんきにおおきくなってね
(ぜ) なってね
(Cたかはし) かぶ
(Cかぞく) かぶのたね まいたんだ
(Cかぞく) ちいさい ちいさい たね だった
(Cかぞく) かみさまが くれた たね
(Cかぞく) まいてるとき おおきなかぶのおはなしを おもいだしたよ
(ぜ) おもいだしたよ
(ぜ) おおきな おおきなかぶになれ あまーい あまーい かぶになれ
(Cかぞく) おまじない したんだよ。
(Cかぞく) おおきくなーれ。
(ぜ) おおきくなーれ。
(ぜ) ぐんぐん ぐんぐん ぐんぐん ぐんぐん
(Dからさわ) 体そうかい
(ぜ) たいそうかい
(Dあら川) はじめての 体そうかい
(ぜ) ドキドキドキドキ ドキドキドキドキ
(Dこんどう) 体そうかいはじゅうがくえんしかないんだよ
(ぜ) ないんだよ
(Dあんどう) デンマーク人も きたんだよ
(ぜ) きたんだよ
(Dからさわ) かぞくりレー
(ぜ) かぞくりレー
(Dあら川) わき目もふらずに はしったよ
(Dこんどう) 体そうは きもちをいれて
(ぜ) 一、二、一、二
(ぜ) がんばった
(ぜ) ちからいっぱい がんばった
(Eすぎはら) えんしゅうりん
(ぜ) えんしゅうりん
(Eかぞく) えんしゅうりん みんなでいった
(ぜ) えんしゅうりん
(Eかぞく) あきのみ たくさん ひろったよ
(Eかぞく) スダジィは たべられる
(Eかぞく) 大きな 大きな 木のように
(おとこの子) ぼくも
(おんなの子) わたしも
(ぜ) のびていく
(ぜ) おともだち なかよくしたいな おともだち

おはよう さよなら ありがとう
 けんかもいっぱいするけれど
 すぐにごめんね いえるんだ
 なかよくしたい これからも
 べんきょう うんどう おそうじ あそび
 いっぱい いっぱい いっぱい いっぱい
 がんばる がんばる がんばる がんばる
 がんばりたい ともだちと

歌 キラキラ キラキラ (美鈴 こゆき作詞)



IV. 報告会を終えて

・児童の日記より 一部抜粋

べんきょうほうこくかい くま川 のの

きょうは、べんきょうほうこくかいだ。どんどんじかんがせまってきた。やっとでばんがきた。ステージにたったら、すごいきんちょうして、ちょっとふあんだった。山下せんせいが「1年せいじゅんびをおねがいします。」といったのでいった。わたしは、大しさんのうしろでとなりがすぎはらさんだった。山下せんせいが、「1年こくご、こえをそろえて」といわれたので、でんでりゅうばを言いながらステージにあがった。つるおせんせいが二かいでしてくれたから、きんちょうがちよっとだけおさまった。みんながきいてくれてうれしかった。おかあさんが、かえるとき、「大きいこえでいったね。」といていた。すごくうれしかった。つぎは三年生ですからのしみにしたい。

べんきょうほうこくかい あら川 みずき

きょうドキドキしたべんきょうほうこくかいでした。山下先生がしかいだった。「一年生よういをおねがいします。」といったから、びくびくどきど

きとしながら、ならんだ。きんちょうしてたからニコニコとわらっちゃった。山下先生が、「一年生こえをそろえて。」といった。そのあときゃんさんが、「さんはい。」といったから、でんでりゅうばのうたをうたって入じょうした。こえのものさしのことをおもい出した。四の音だったかなとかんがえた。つるお先生が二かいの上になつたから、上にかおをむけて上をちゅう目してこえをだした。と中でおとうさん、おかあさんを見るとニコニコしちゃった。じぶんのところがきた。じぶんでは、ちょっとこえがひくいかなとおもった。キラキラのうたがおわっておきやくさんがはく手をしてくれた。とてもはく手がながかった。上手だからながいかなとおもった。・・・きんちょうした一日だった。

・報告会後の児童の詩

ほうこくかい きゃんかなで

ほうこくかい やったんだ

ドキドキしたんだよ

きんちょうしたけれど がんばった おわったよ
 先生に 大きな 大きな はなまる もらったよ
 うれしかった またやりたい

大きな 大きな こえで

V. 終わりに

ステージ練習後は、子どもたちにも今日の取り組みがどうだったかを、聞き合う時間をとるようにしてきた。子どもたちの中からは、必ず、「昨日よりも〇〇さんのここがよかった」「〇〇さんが頑張っていた」と進歩したところを認め合う空気がいつも組の中に流れていた。組作りにおいて「ことば」を通して友だちと交わることが子どもたちの成長につながっているを感じた。すぐに気持ち揃ったわけではなかったが、16回のステージ練習を通して、仲間と声を揃えることの難しさを感じ、それをこえたときの気持ちよさ、楽しさを子ども自身が実感できた報告会だったと思う。

最後に今回、元初等部長、宮本正子先生にご助言、ご指導いただきましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

VI. 参考文献

「群読をつくる」家本芳郎著 高文研

「群読」家本芳郎・日本群読教育の会 高文研

朗読・群読ことばあそび 葛岡雄治監修 ルック

「群読」家本芳郎・青年劇場 高文研